◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館 読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け） 令和4年版

3 社会の問題

3173 老いの福袋―あっぱれ！ころばぬ先の知恵88

樋口 恵子/著 中央公論新社 2021 年 229p

福祉や女性、教育分野での評論活動や、介護保険を実現するなどしてきた著者は執筆当時 88 歳。何をするにもヨタヨタヘロヘロ＝「ヨタヘロ期」まっただ中だった。このエッセイでは、片付けや家事、お金、人づきあい、介護など、著者の体験や見聞きしたことをふまえ、「老い」の不安を乗り越えるための知恵が紹介されている。

4 自然を見つめる

479 スマホ脳

アンデシュ・ハンセン/著 久山 葉子/訳

新潮社 2020 年 255p

人類の長い歴史の中で、情報機器に依存した生活は、進化に対応できていないのか？IT企業のトップは、なぜ我が子にスマホを与えないのか？生活が便利になる反面、IQ の低下が進んでいるのか？毒薬ともなり得る情報機器とどう向き合っていくべきか、考えさせられる一冊。第 56 回新風賞受賞。

F 小説

F591 お探し物は図書室まで

青山 美智子/著 ポプラ社 2020 年 300p

区の集会所にある図書室。その奥の小さなレファレンスカウンターには司書がいて、迷い込んだ人にぴったりの本を選んでくれる。本との出会いは小さなきっかけとなり、何かが変わってゆく。婦人服販売員、家具メーカーの経理担当、子育て中の元雑誌編集者、漫画が好きなニート、定年退職した男性……年齢も性別も職業も様々な5人の物語。2021 年本屋大賞第2位。

F592 貝に続く場所にて

石沢 麻依/著 講談社 2021 年 151p

東日本大震災から9年後のコロナ禍、ドイツに留学中の「私」の元に、震災で行方不明となった大学の知人が現れる。しかし、隔たった時間と記憶のため、「私」は彼との距離感をつかむことができない。東北から遠く離れた街で、場所や物に重なる記憶はどこへ辿り着くのか。文学が芸術であることを再確認する、第 165 回芥川賞、第 64 回群像新人文学賞受賞作品。

◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆◆◇◆

愛媛県立図書館　読書会協力図書
新規受入セットのご紹介（一般向け）　令和4年版

F　小説

F593　水たまりで息をする

高瀬　隼子/著　集英社　2021 年　136p

「風呂には、入らないことにした。」ある日突然、入浴を拒むようになった夫に、衣津実は戸惑う。やがて、夫は水浴びをする川を求めて、彼女の郷里に移住する。物語の象徴となった川は、著者が幼い頃身近な存在だった国領川が、イメージのひとつになっているという。第 165 回芥川賞候補作。著者は、新居浜市出身。

F594　52ヘルツのクジラたち

町田　そのこ/著　中央公論新社　2020 年　260p

子どもの頃の虐待の記憶を抱え、大分県の小さな海辺の町で暮らし始めた貴瑚。静かな生活を送る彼女が出会ったのは、母親から虐待され、“ムシ”と呼ばれる 13 歳の少年だった。自分と同じ孤独の匂いを感じ、ほうっておけない貴瑚は、少年を家に住まわせるようになるが……。親の愛情に飢え、孤独なクジラのように寄り添う二人の、癒しと再生の物語。2021 年本屋大賞受賞。

F595　自転しながら公転する

山本　文緒/著　新潮社　2020 年　478p

東京で暮らしていた 32 歳の都は、母親の看病のため、茨城の実家に戻りアウトレットモールで働き始める。トラブル続きの職場、結婚への焦り、相次いで体調を崩す両親。次々と襲い掛かってくる未来への不安と闘いながら、浮き沈みを繰り返しつつ前進していく女性の姿を描いた物語。第 16 回中央公論文芸賞受賞。2021 年本屋大賞第5位。